

Peripartum management of pregnant women with congenital heart disease

山崎, 啓子

<https://hdl.handle.net/2324/2534387>

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (看護学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

氏名	山崎 啓子			
論文名	Peripartum management of pregnant women with congenital heart disease (先天性心疾患合併妊婦の周産期管理)			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	橋口 暢子
	副査	九州大学	教授	中尾 久子
	副査	九州大学	教授	藤田 君支

論文審査の結果の要旨

医療技術の進歩により、先天性心疾患(CHD, congenital heart disease)を有する成人患者は増加し、それに伴い出産年齢に達したCHD女性も増加している。CHD合併妊婦は、循環器や産科的合併、新生児の合併症発生リスクが高いことから、安全な周産期管理を行うために、それら合併の発症を予測するリスク評価は重要な課題である。

本研究は、CHD合併妊婦における周産期の安全性を決定する要因を明らかにすることを目的に、CHD合併妊婦の周産期管理専門4施設において、2009年1月から2016年3月までの期間に出産したCHD合併妊婦の診療録を基に、後方視的実態調査が実施された。調査項目は、基本属性、CHD歴、CHDに関連した手術歴、産科病歴、身体的所見、心機能所見、ニューヨーク心臓協会(NYHA)心機能分類、CHD重症度分類、妊娠前および妊娠中の薬物療法、周産期に関するデータなどである。

分析の結果、CHD合併妊婦217名(出産時年齢: 31.4 ± 5.6 歳; NYHA心機能分類 I/II: 88.9%/17.4%)のCHD重症度は、American College of Cardiology(ACC)/ American Heart Association(AHA)のガイドラインに従って分類すると、軽症(n=116)、中等症(n=69)、重症(n=32)であった。周産期に、30名のCHD合併妊婦に33件の心血管イベント(心不全: n=24、不整脈: n=9)が発生した。中等症および重症CHD妊婦の場合、軽症CHD妊婦よりも妊娠中の心血管イベント発生リスクが高く、また、発生時期も妊娠早期からイベントが発生していた。さらに、心血管イベントが発生したCHD合併妊婦は、発生しなかったCHD妊婦よりも有意に出産回数が多く、NYHA心機能分類が高く、CHD重症度分類が高いことが明らかとなった。

以上の結果より、周産期管理中の安全性を高めるために、CHD合併妊婦のうち、特に中等症および重症CHDの場合、専門施設での注意深い管理が必要であること、また、CHD重症度および出産歴に基づく評価を行うことの重要性などが示され、CHD合併妊婦における安全な周産期管理を行うための重要な示唆を示した本研究の意義は高い。

論文審査において、研究の位置づけ、方法、結果、考察に対する委員からの質問に対してもおおむね適切な回答が得られたので、主査、副査にて協議を行い、本論文が博士(看護学)の学位に値するものであると認めた。

令和元年 8月28日

主査 橋口 暢子
副査 中尾 久子
副査 藤田 君支